



作物統計調査 令和7年産水稻の収穫量（北海道）

令和7年産主食用米収穫量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は前年産に比べ2万5,900tの増加となった。

なお、主食用米収穫量（ふるい目幅1.70mmベース）は前年産に比べ2万3,400tの増加となった。

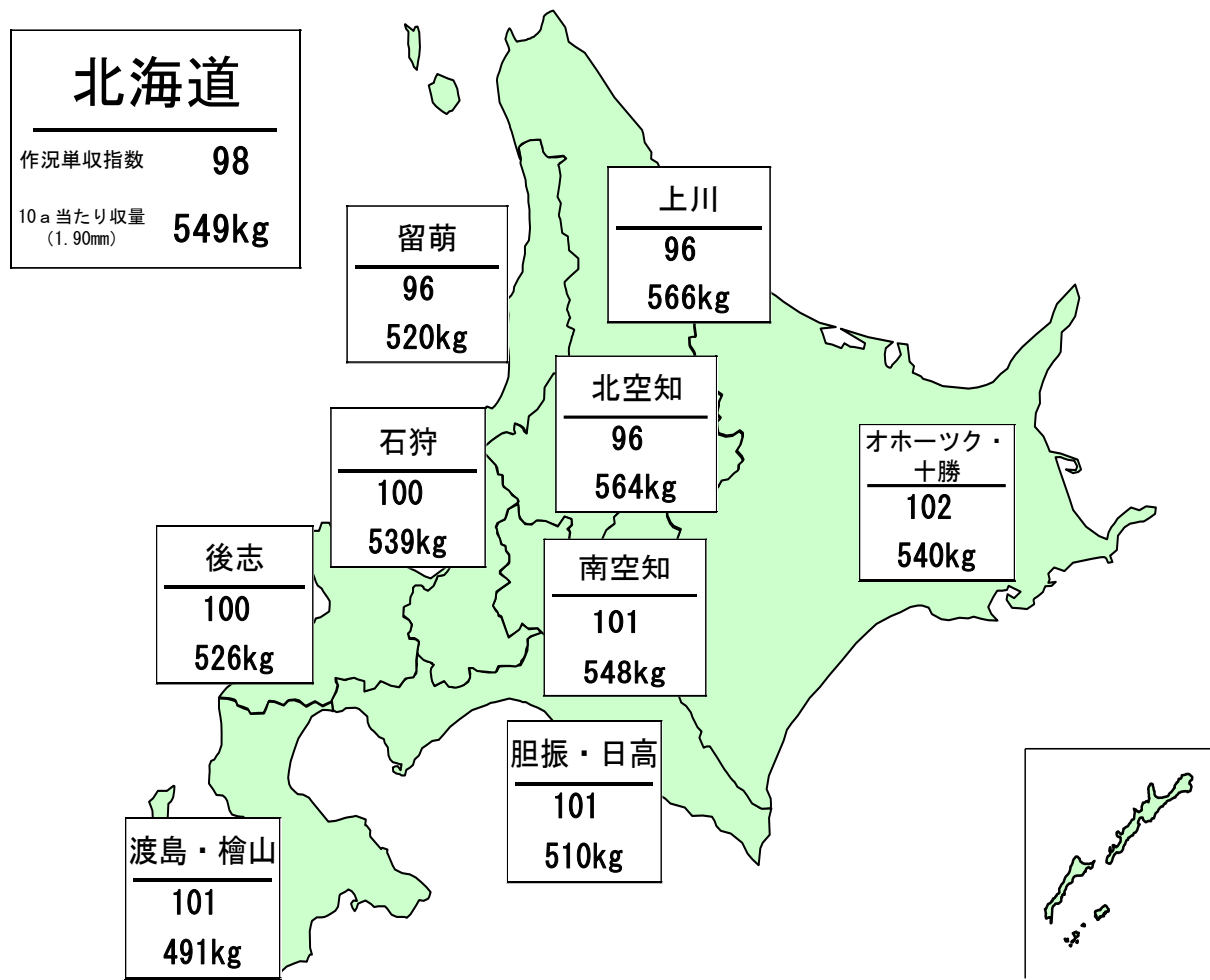
【調査結果の概要】

北海道における令和7年産水稻の収穫量（主食用）※1は49万6,300t（前年産に比べ2万5,900t増加）となった。

これは、北海道における令和7年産水稻の作付面積（主食用）が9万400ha（前年産に比べ6,700ha増加）となった一方で、水稻の10a当たり収量※1は549kg（対前年比98）となったためである。

また、作況単収指数※2は98となった。

図1 作柄表示地帯別作況単収指数及び10a当たり収量※1



※1：生産者が使用しているふるい目幅ベース（1.90mm）で選別された玄米の重量である。

※2：「作況単収指数」とは、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10a当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a当たり収量の比率である。

- 作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月15日時点）を除いた面積である（10ページの【参考1】参照）。
- 10a 当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 10a 当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は、ふるい目幅1.70mmで選別された玄米の重量である。
- 「作況単収指数」とは、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10a 当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a 当たり収量の比率である。

表1 令和7年産水稻の作付面積（主食用）、10a 当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積（主食用）			生産者が使用しているふるい目幅で選別（1.90mm）					作況 単収 指数
				10 a 当たり収量		収穫量 （主食用（生産者ふるい上米））			
	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	前年産との 比較	実 数 ③＝①×②	前年産との比較		
		対 差	対 比				対 差	対 比	
北 海 道	ha 90,400	ha 6,700	% 108	kg 549	% 98	t 496,300	t 25,900	% 106	98

区 分	ふるい目幅1.70mmで選別				
	10 a 当たり収量		収穫量 （主食用（生産者ふるい下米含む））		
	実 数 ④	前年産との 比較	実 数 ⑤＝①×④	前年産との比較	
		対 比		対 差	対 比
北 海 道	kg 574	% 97	t 518,900	t 23,400	% 105

- 注：1 作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 2 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a 当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 3 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a 当たり収量については、過去5か年に北海道の生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。
- 4 「作況単収指数」とは、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10a 当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a 当たり収量の比率である。

【調査結果】

1 作付面積

水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた作付面積（主食用）は9万400haで、前年産に比べ6,700ha増加した。

なお、水稻の作付面積（子実用）は10万700haで、前年産に比べ5,700ha増加した。

2 作柄概況（前年との比較）

- (1) 全もみ数は「やや少ない」となった。これは、5月下旬から6月上旬にかけて低温・寡照で経過し、6月中旬以降に前年を上回る気温で経過したことで、分けつが進まないまま生殖生長へ切り替わった結果、茎数が十分に確保できなかったためである。
- (2) 千もみ当たり収量は「やや多い」となった。これは、7月のえい花分化期、減数分裂期及び出穂期にあたる時期は、前年を上回る気温で経過し、花粉の形成・充実及び開花・受精は概ね順調となり、その後の登熟期間も概ね前年並みの気象で経過したことで粒の肥大・充実が順調であったためである。
- (3) この結果、北海道の10a当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は、549kg（前年産に比べ13kg減少、対前年比98）、作況単収指数は98となった。

3 収穫量

以上の結果、生産者が使用しているふるい目幅（1.90mm）で選別した北海道の収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、49万6,300tとなった。また、ふるい目幅1.70mmベースの収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は51万8,900tとなった。

なお、北海道の収穫量（子実用）は57万8,000tとなった。

表2 令和7年産水稻の10a当たり収量（作柄表示地帯別）

北海道・ 作柄表示地帯	生産者が使用している ふるい目幅で選別（1.90mm）		ふるい目幅1.70mmで選別		作況 単収 指数
	10 a 当たり収量		10 a 当たり収量		
	実 数	前年産との比較	実 数	前年産との比較	
		対 比		対 比	
	kg	%	kg	%	
北 海 道	549	98	574	97	98
石 狩	539	100	560	99	100
南 空 知	548	101	572	99	101
北 空 知	564	96	590	96	96
上 川	566	96	593	96	96
留 萌	520	96	538	94	96
渡 島 ・ 檜 山	491	100	517	98	101
後 志	526	101	542	99	100
胆 振 ・ 日 高	510	101	531	100	101
オホーツク・十勝	540	99	561	98	102

注：1 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a当たり収量は生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。

2 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a当たり収量については、過去5か年に北海道の生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

3 「作況単収指数」とは、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10a当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a当たり収量の比率である。

表 3 水稻の年次別推移（北海道）

年 産	作 付 面 積 (主食用)	生産者が使用している ふるい目幅で選別 (1.90mm幅)			ふるい目幅 1.70mmで選別			作 付 面 積 (子実用)	ふるい目幅 1.70mmで選別	作況 単収 指数
		10 a 当たり 収 量	対前年比	収 穫 量 (主食用(生産者ふるい上米))	10 a 当たり 収 量	対前年比	収 穫 量 (主食用(生産者ふるい下米含む))		収 穫 量 (子実用)	
	①	②		③=①×②	④		⑤=①×④	⑥	⑦=④×⑥	
	ha	kg	%	t	kg	%	t	ha	t	
令和3年産	88,400	570	102	503,900	597	103	527,700	96,100	573,700	107
4	82,500	563	99	464,500	591	99	487,600	93,600	553,200	103
5	82,200	555	99	456,200	579	98	475,900	93,300	540,200	100
6	83,700	562	101	470,400	592	102	495,500	95,000	562,400	101
7	90,400	549	98	496,300	574	97	518,900	100,700	578,000	98

資料：農林水産省統計部『作物統計』

- 注：1 作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 2 前年産まで収穫量（主食用）として公表していたふるい目幅 1.70mm の収穫量（主食用）は、令和7年産以降、収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））と表記することとした。
- 3 生産者が使用しているふるい目幅で選別された 10 a 当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 4 生産者が使用しているふるい目幅は、過去5か年に北海道の生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅である。
- 5 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積である。
- 6 「作況単収指数」とは、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した 10 a 当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する 10 a 当たり収量の比率である。

図 2 水稻の作付面積（主食用）、10 a 当たり収量及び収穫量（主食用）の推移（北海道）

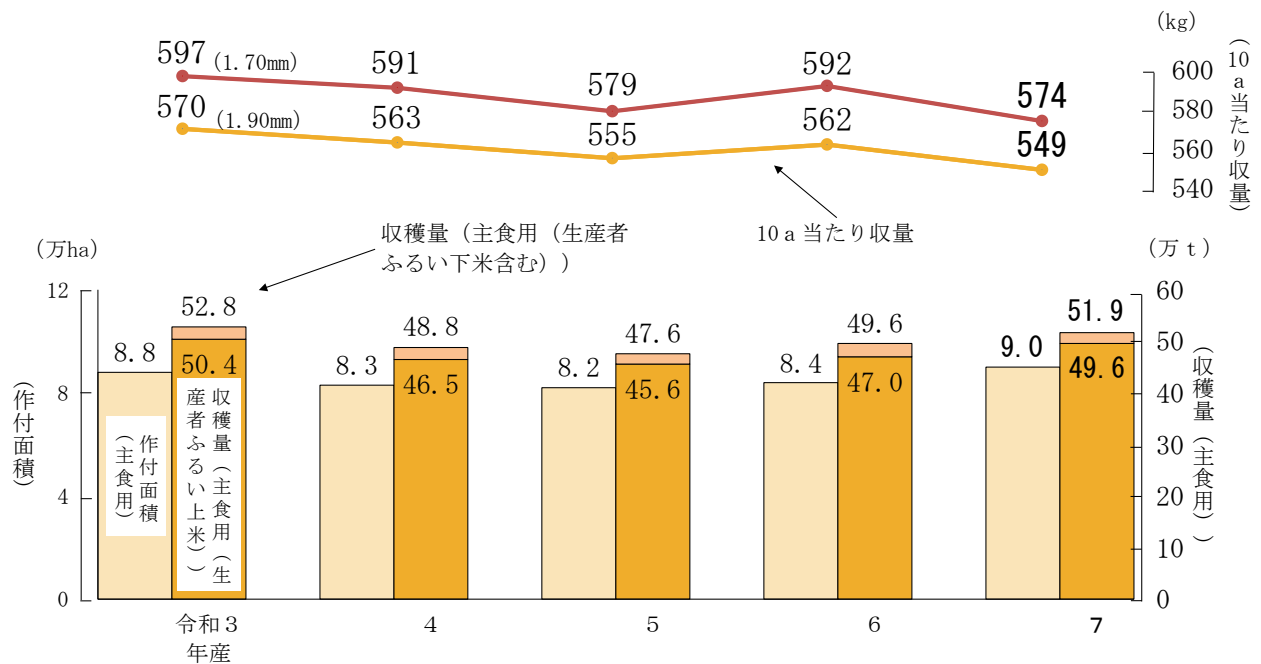


表4 令和7年産水稻の作況標本筆の10a当たり収量の分布状況（北海道）

区分	計	単位：％								
		100kg未満	100 ～200	200 ～300	300 ～400	400 ～500	500 ～600	600 ～700	700 ～800	800kg以上
筆数割合	100.0	—	—	0.6	3.3	25.6	45.6	22.9	1.8	0.2
前年値	100.0	—	—	0.2	2.2	21.8	51.1	22.0	2.7	—
対前年差	0.0	—	—	0.4	1.1	3.8	△ 5.5	0.9	△ 0.9	0.2

注：10a当たり収量は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。

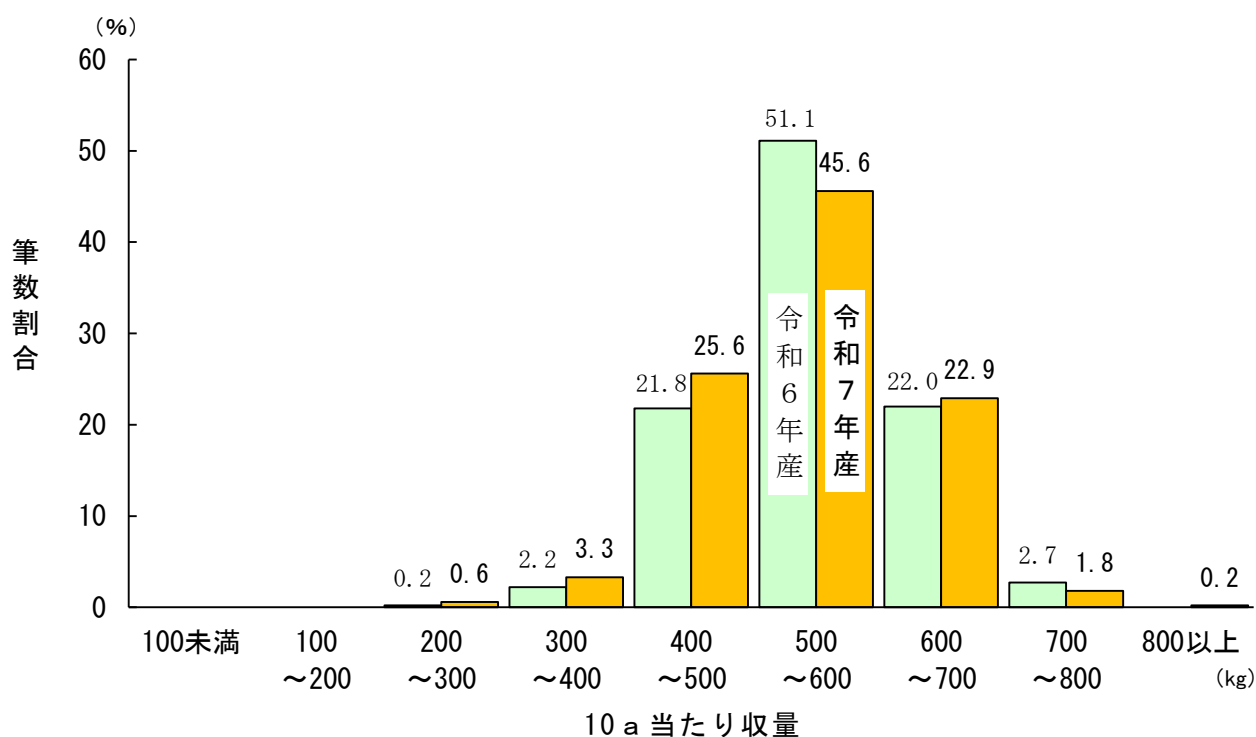
図3 令和7年産水稻の作況標本筆の10a当たり収量の分布状況（北海道）
（生産者が使用しているふるい目幅ベース）

表5 令和7年産水稻の玄米品位の状況（北海道）

区 分	単位：％			
	白未熟粒	死米	胴割粒	着色粒
重量割合	2.9	0.3	0.3	0.2

注：1 水稻作況標本筆の刈取試料（生産者が使用しているふるい目幅で選別した玄米）を筆ごとに穀粒判別器を用いて品位分析を行い、その結果を集計したものであり、調製のうえ販売される玄米の品位とは異なる。

2 白未熟粒は白色不透明な部分の大きさが粒平面の1/2以上のものである粒、死米は粉状質で光沢がないものが2/3以上を占める粒、胴割粒は粒平面に横一条の亀裂がすっきり通っている粒、着色粒は着色部分の大きさが直径1mm以上かつ粒表面の2/3以下のものである粒をいう。

水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10 a 当たり収量及び収穫量

生産者等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取り済みの地域について、ふるい目幅別の重量割合並びにふるい目幅別 10 a 当たり収量及び収穫量を示すと次のとおりである。

本調査では、農産物規格規程に定める三等以上の玄米の重量を把握しており、未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。

表 6 ふるい目幅別重量分布状況の推移（北海道）

単位：％

年 産	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～1.95	1.95 ～2.00	2.00mm 以 上
令和 3 年産	100.0	0.6	0.9	1.2	1.9	3.1	5.5	86.8
4	100.0	0.7	1.0	1.2	1.9	3.8	6.6	84.8
5	100.0	0.5	0.8	1.1	1.8	3.5	5.7	86.6
6	100.0	0.6	1.0	1.2	2.2	3.8	6.9	84.3
7	100.0	0.5	0.8	1.0	2.0	3.3	5.6	86.8
対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.2	△ 0.2	△ 0.5	△ 1.3	2.5

注：ふるい目幅別重量分布とは、それぞれのふるい目幅で選別された玄米の重量の割合である。

表 7 ふるい目幅別 10 a 当たり収量及び収穫量（主食用）の推移（北海道）

年 産	区 分	単位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	1.95mm 以 上	2.00mm 以 上
令和 3 年産	10 a 当 たり 収 量	kg	597	593	588	581	570	551	518
	収 穫 量	t	527,700	524,500	519,800	513,500	503,400	487,100	458,000
4	10 a 当 たり 収 量	kg	591	587	581	574	563	540	501
	収 穫 量	t	487,600	484,200	479,300	473,500	464,200	445,700	413,500
5	10 a 当 たり 収 量	kg	579	576	571	565	555	534	501
	収 穫 量	t	475,900	473,500	469,700	464,500	455,900	439,300	412,100
6	10 a 当 たり 収 量	kg	592	588	583	575	562	540	499
	収 穫 量	t	495,500	492,500	487,600	481,600	470,700	451,900	417,700
7	10 a 当 たり 収 量	kg	574	571	566	560	549	530	498
	収 穫 量	t	518,900	516,300	512,200	507,000	496,300	478,900	449,600
	収 穫 量 対 前 年 比	％	105	105	105	105	105	106	108

注：1 ふるい目幅別 10 a 当たり収量とは、北海道の 10 a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別収穫量（主食用）とは、北海道の収穫量（主食用）にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

表 8 令和 7 年産水稻の作付面積（子実用）、10 a 当たり収量及び収穫量
（作柄表示地帯別）

北海道・ 作柄表示地帯	作付面積 (子実用)			ふるい目幅1.70mmで選別		収穫量 (子実用) (1.70mm)			玄米重 歩合
	実数	前年産との比較		10 a 当たり収量		③=①×②	前年産との比較		
				実 数	前年産との 対 比				
		①	対差				対比	②	
	ha	ha	%	kg	%	t	t	%	%
北海道	100,700	5,700	106	574	97	578,000	15,600	103	98.5
石狩	7,110	440	107	560	99	39,800	2,000	105	98.8
南空知	16,900	2,200	115	572	99	96,700	11,700	114	98.7
北空知	26,700	1,000	104	590	96	157,500	△ 800	99	98.5
上川	28,800	1,000	104	593	96	170,800	△ 1,300	99	98.4
留萌	3,980	170	104	538	94	21,400	△ 300	99	98.8
渡島・檜山	6,980	460	107	517	98	36,100	1,700	105	98.5
後志	4,700	300	107	542	99	25,500	1,400	106	98.9
胆振・日高	4,760	210	105	531	100	25,300	1,200	105	98.9
オホーツク・十勝	855	△ 3	100	561	98	4,800	△ 110	98	96.3

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から青刈り面積（飼料用米・WCS 用稲等を含む。）を除いた面積である。
- 2 作付面積（子実用）及び収穫量（子実用）については、四捨五入の関係で合計値と内訳の計が一致しない場合がある。
- 3 玄米重歩合とは、1.70mm のふるい目幅で選別された 10 a 当たり玄米重及び粗玄米重より推計したものである。

表 9 令和 7 年産ふるい目幅別重量分布状況（作柄表示地帯別）

北海道・ 作柄表示地帯	区分	計	単位：%						
			1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～1.95	1.95 ～2.00	2.00mm 以 上
北 海 道	重 量 割 合	100.0	0.5	0.8	1.0	2.0	3.3	5.6	86.8
	前 年 値	100.0	0.6	1.0	1.2	2.2	3.8	6.9	84.3
	対 前 年 差	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.2	△ 0.2	△ 0.5	△ 1.3	2.5
石 狩	重 量 割 合	100.0	0.5	0.8	0.9	1.7	3.4	6.0	86.7
	前 年 値	100.0	0.6	0.9	1.1	2.0	4.0	7.4	84.0
	対 前 年 差	0.0	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.3	△ 0.6	△ 1.4	2.7
南 空 知	重 量 割 合	100.0	0.6	0.9	1.1	1.9	3.4	6.0	86.1
	前 年 値	100.0	0.8	1.2	1.4	2.4	4.6	8.2	81.4
	対 前 年 差	0.0	△ 0.2	△ 0.3	△ 0.3	△ 0.5	△ 1.2	△ 2.2	4.7
北 空 知	重 量 割 合	100.0	0.5	0.8	1.0	2.1	3.4	5.5	86.7
	前 年 値	100.0	0.6	0.9	1.2	2.3	3.9	6.9	84.2
	対 前 年 差	0.0	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.2	△ 0.5	△ 1.4	2.5
上 川	重 量 割 合	100.0	0.5	0.9	1.1	2.1	3.0	4.9	87.5
	前 年 値	100.0	0.6	0.9	1.0	1.9	2.7	4.9	88.0
	対 前 年 差	0.0	△ 0.1	0.0	0.1	0.2	0.3	0.0	△ 0.5
留 萌	重 量 割 合	100.0	0.4	0.6	0.8	1.7	3.0	4.6	88.9
	前 年 値	100.0	0.6	1.0	1.0	2.0	3.3	5.1	87.0
	対 前 年 差	0.0	△ 0.2	△ 0.4	△ 0.2	△ 0.3	△ 0.3	△ 0.5	1.9
渡 島・檜 山	重 量 割 合	100.0	0.6	1.0	1.3	2.4	4.9	9.0	80.8
	前 年 値	100.0	0.7	1.3	2.2	3.2	7.3	13.3	72.0
	対 前 年 差	0.0	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.9	△ 0.8	△ 2.4	△ 4.3	8.8
後 志	重 量 割 合	100.0	0.4	0.6	0.7	1.4	2.7	5.1	89.1
	前 年 値	100.0	0.6	1.0	1.2	2.0	3.8	6.8	84.6
	対 前 年 差	0.0	△ 0.2	△ 0.4	△ 0.5	△ 0.6	△ 1.1	△ 1.7	4.5
胆 振・日 高	重 量 割 合	100.0	0.5	0.8	0.9	1.7	3.4	6.0	86.7
	前 年 値	100.0	0.6	1.0	1.2	2.1	4.1	7.8	83.2
	対 前 年 差	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.3	△ 0.4	△ 0.7	△ 1.8	3.5
オホーツク・ 十 勝	重 量 割 合	100.0	0.4	0.9	0.8	1.4	3.3	5.0	88.2
	前 年 値	100.0	0.4	0.9	1.0	2.1	3.4	5.8	86.4
	対 前 年 差	0.0	0.0	0.0	△ 0.2	△ 0.7	△ 0.1	△ 0.8	1.8

注：ふるい目幅別重量分布とは、それぞれのふるい目幅で選別された玄米の重量の割合である。

表10 令和7年産ふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（子実用）
（作柄表示地帯別）

北海道・ 作柄表示地帯	区 分	単位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	1.95mm 以 上	2.00mm 以 上
北海道	10 a 当 たり 収 量	kg	574	571	566	560	549	530	498
	収 穫 量 （ 子 実 用 ）	t	578,000	574,900	570,100	564,100	552,800	533,800	501,300
石 狩	10 a 当 たり 収 量	kg	560	557	553	547	539	520	487
	収 穫 量 （ 子 実 用 ）	t	39,800	39,600	39,300	38,900	38,300	37,000	34,600
南 空 知	10 a 当 たり 収 量	kg	572	569	563	557	548	528	493
	収 穫 量 （ 子 実 用 ）	t	96,700	96,100	95,200	94,200	92,600	89,300	83,400
北 空 知	10 a 当 たり 収 量	kg	590	587	582	576	564	544	511
	収 穫 量 （ 子 実 用 ）	t	157,500	156,700	155,500	153,900	150,600	145,200	136,400
上 川	10 a 当 たり 収 量	kg	593	590	585	578	566	548	519
	収 穫 量 （ 子 実 用 ）	t	170,800	169,900	168,400	166,500	163,000	157,900	149,600
留 萌	10 a 当 たり 収 量	kg	538	535	533	528	520	505	480
	収 穫 量 （ 子 実 用 ）	t	21,400	21,300	21,200	21,000	20,700	20,100	19,100
渡 島 ・ 檜 山	10 a 当 たり 収 量	kg	517	514	509	503	491	466	420
	収 穫 量 （ 子 実 用 ）	t	36,100	35,900	35,500	35,100	34,300	32,500	29,300
後 志	10 a 当 たり 収 量	kg	542	540	536	534	526	511	483
	収 穫 量 （ 子 実 用 ）	t	25,500	25,400	25,200	25,100	24,700	24,000	22,700
胆 振 ・ 日 高	10 a 当 たり 収 量	kg	531	529	525	519	510	492	460
	収 穫 量 （ 子 実 用 ）	t	25,300	25,200	25,000	24,700	24,300	23,400	21,900
オホーツク・十勝	10 a 当 たり 収 量	kg	561	559	554	550	540	522	494
	収 穫 量 （ 子 実 用 ）	t	4,800	4,780	4,740	4,700	4,620	4,460	4,220

注：1 ふるい目幅別10a当たり収量とは、北海道及び作柄表示地帯別の10a当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。
2 ふるい目幅別収穫量（子実用）とは、北海道及び作柄表示地帯別の収穫量（子実用）にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

表11 生産者が使用したふるい目幅の分布（北海道）
【令和7年産水稻作況標本筆生産者からの聞き取り結果】

単位：％

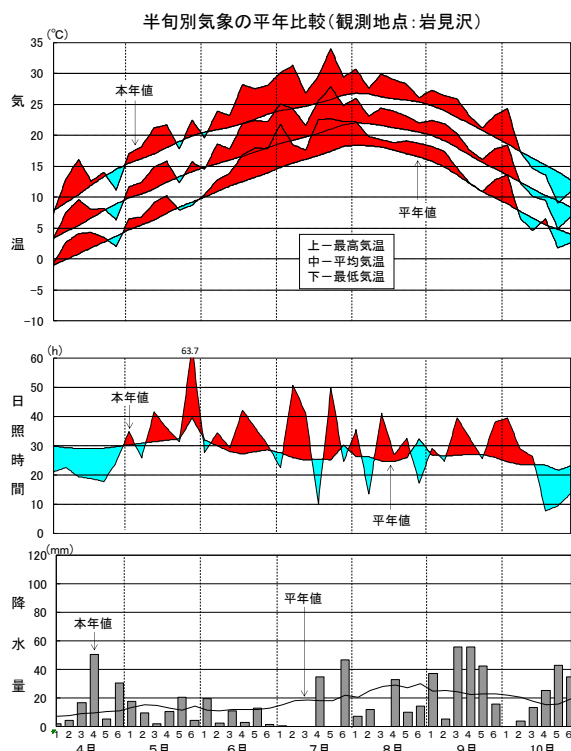
区 分	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
北海道	100.0	0.2	-	0.8	21.4	75.5	2.1

注： 生産者が使用したふるい目幅の分布とは、水稻作況標本筆生産者が使用したふるい目幅別の生産者数割合を示したものである。

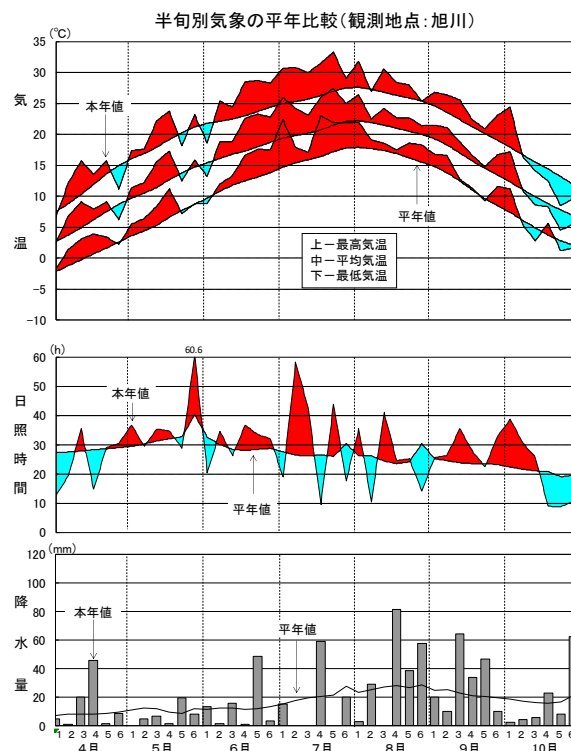
【気象経過】

半旬別気象経過

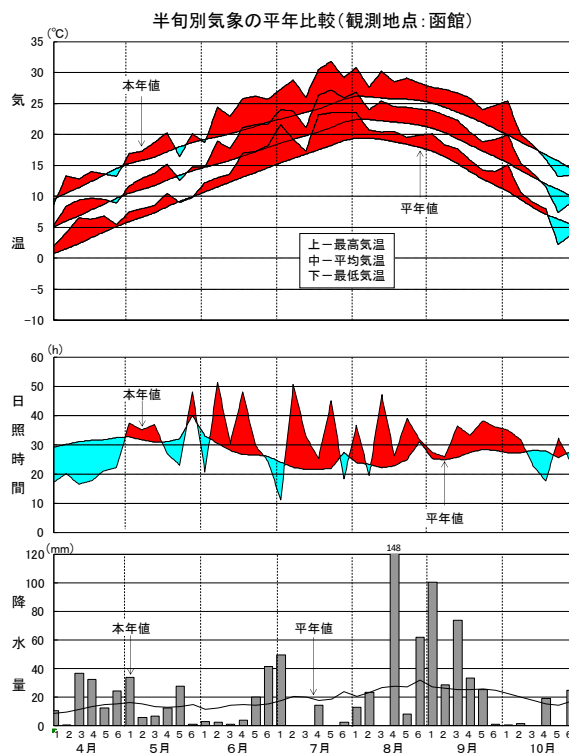
南空知



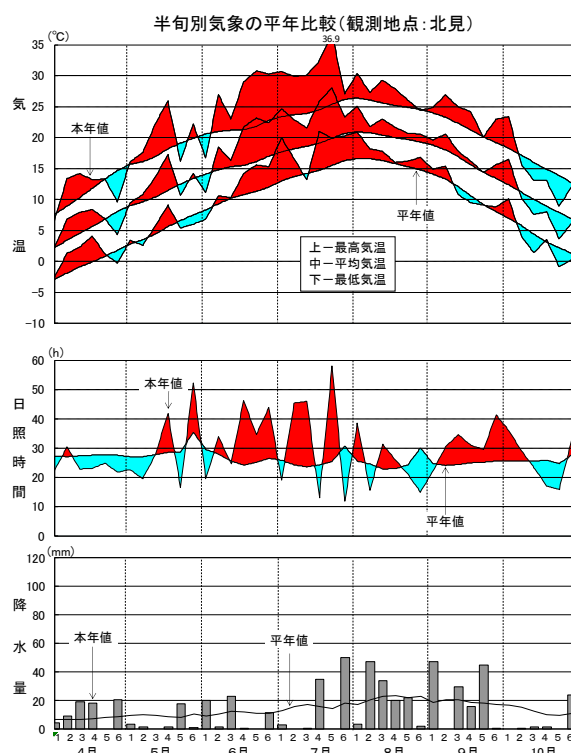
上川



渡島・檜山



オホーツク・十勝

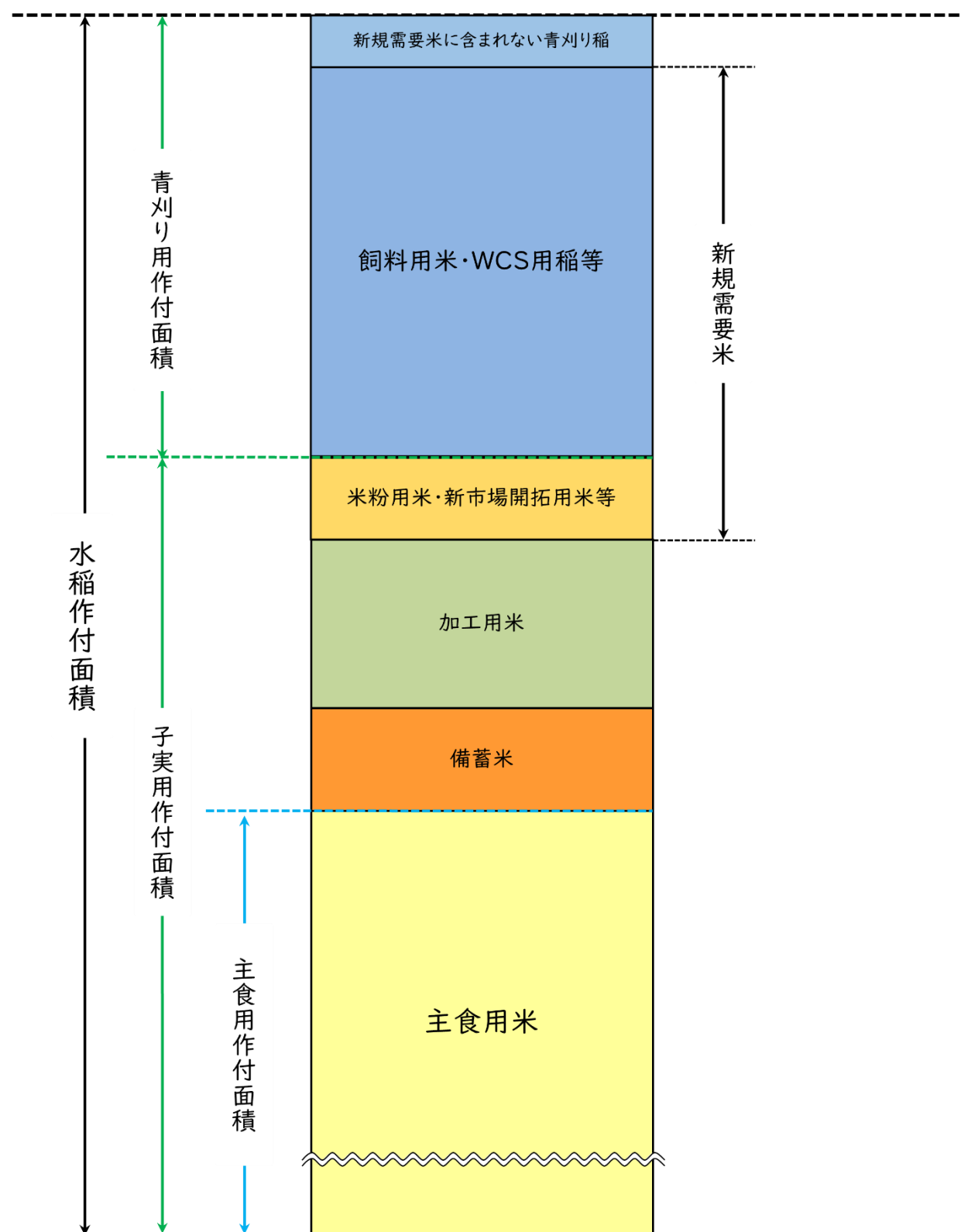


資料：気象庁のアメダスデータを基に、北海道農政事務所で作成。

そのほかの地域の気象経過については、14 ページのホームページ掲載案内を御覧下さい。

【参考 1】

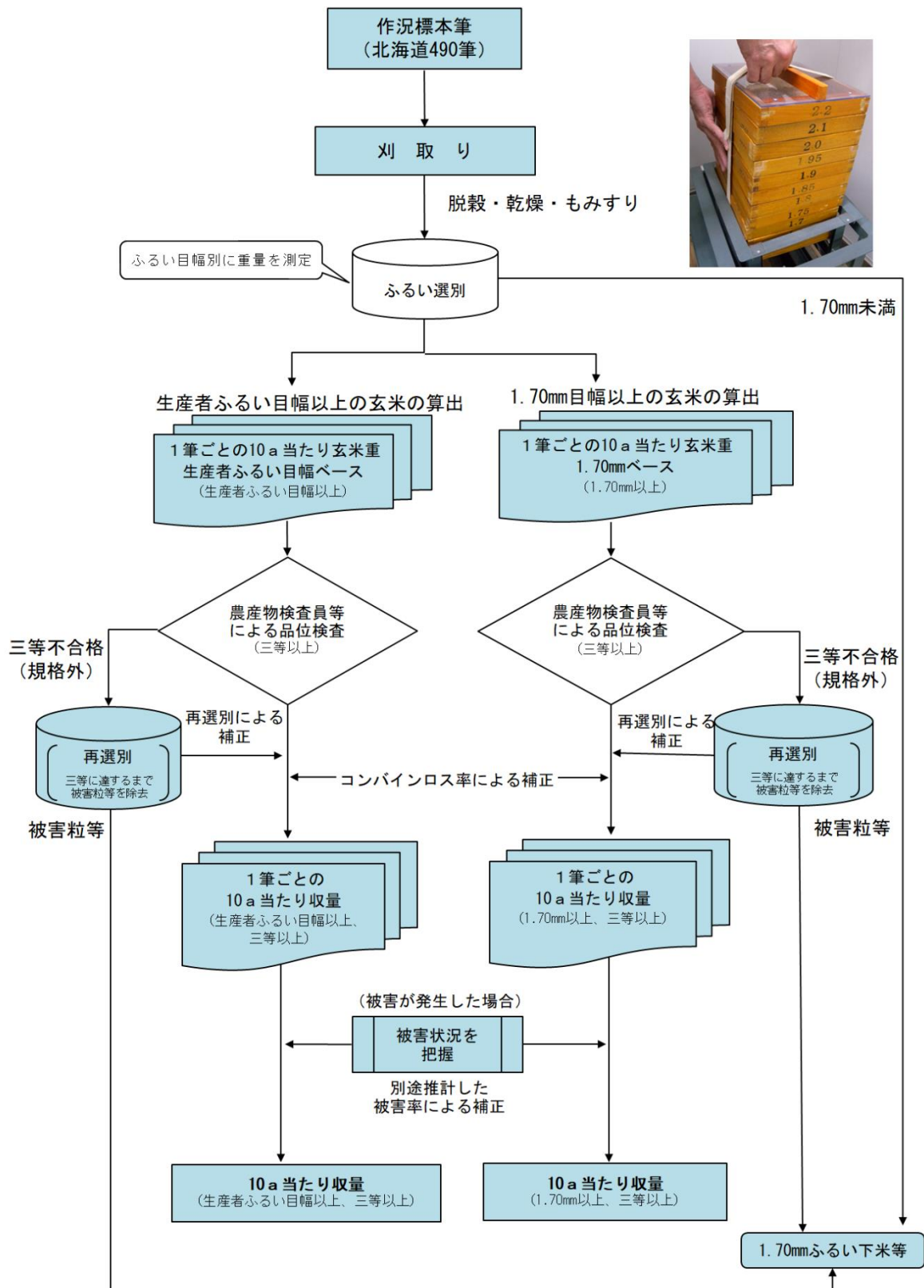
水稻作付面積の概念図



【参考 2】

刈取り調査における 10 a 当たり収量の算出方法

作況標本筆（【参考 3】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位以上に相当するよう選別を行い、その重さを計測し、コンバインロス率及び被害率による補正を行い 10 a 当たり収量を算出している（下図参照）。

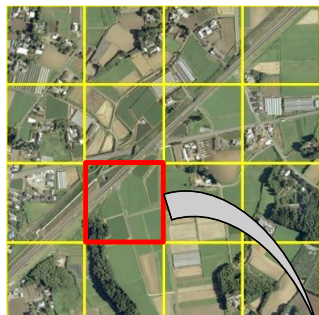


【参考3】

作況標本^{ふで}筆とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を^{ふで}筆と呼ぶ。）は、北海道の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（北海道で490筆）調査している。

北海道の全ての土地
（母集団）



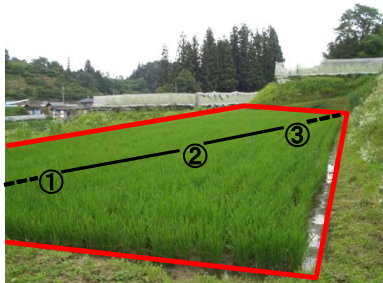
- 1 北海道の全ての土地を400m四方に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（400m四方の土地）



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（北海道で490筆）

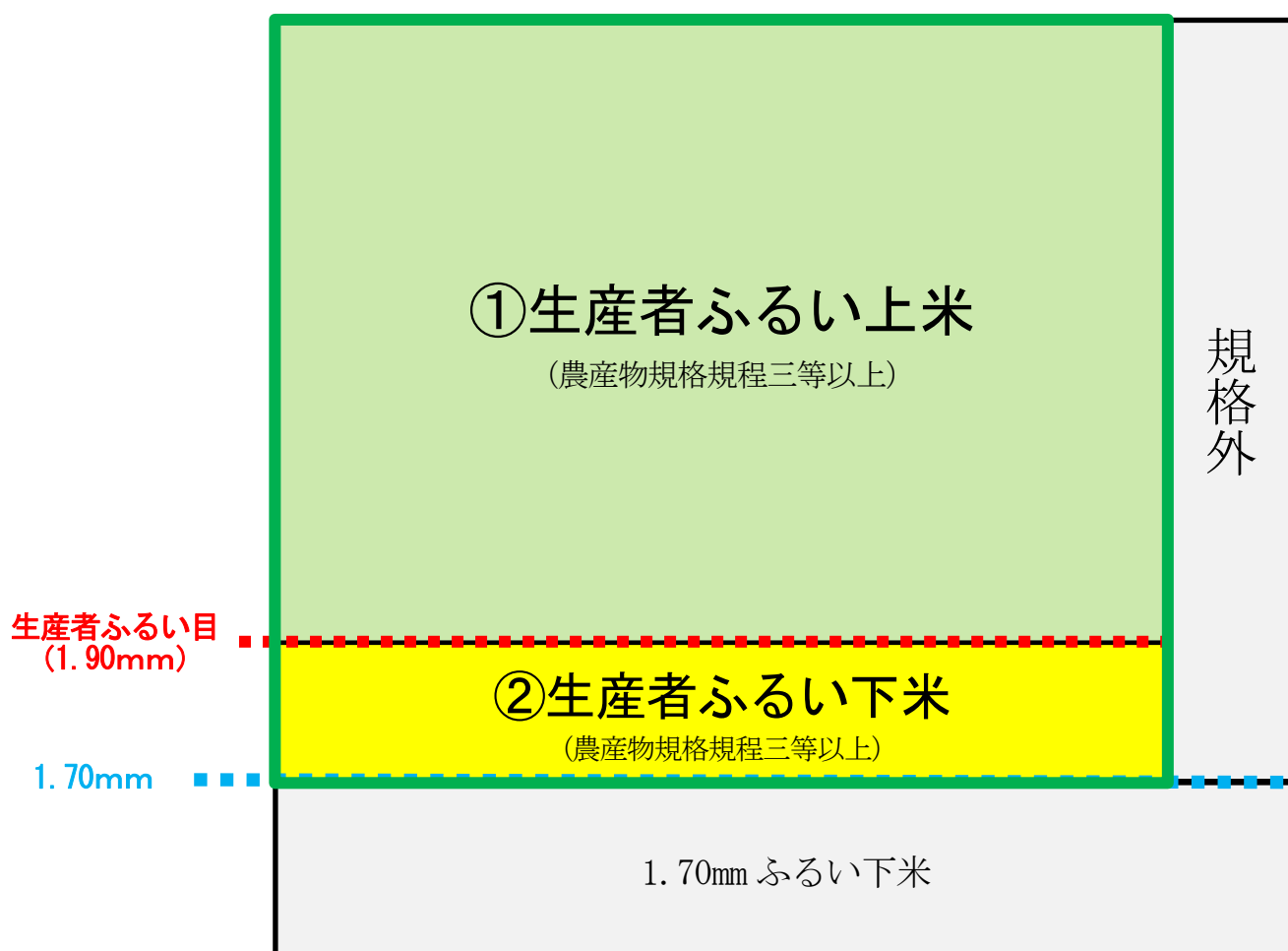


- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【参考 4】

水稻収穫量調査の収穫量イメージ

- ① 収穫量（生産者ふるい上米）は、北海道で最も使用されている生産者ふるい目（1.90mm）以上で農産物規格規程三等以上の収穫量を対象としている。
- ② 収穫量（生産者ふるい下米）は、ふるい目幅 1.70mm 以上、農産物規格規程三等以上で生産者ふるい目幅未満の収穫量を対象としている。
- ③ 収穫量（生産者ふるい下米含む）は、①と②をあわせた収穫量（緑枠）を対象としている。



【調査の概要】

・面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

・作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

【水稻調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における品目ごとの生産量や作付面積等のKPIの設定及び検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】

「農林水産統計公表資料」

【 <https://www.maff.go.jp/hokkaido/toukei/kikaku/sokuho/> 】



「北海道の気象と作柄」

【 https://www.maff.go.jp/hokkaido/toukei/seisan/kisyo_sakugara/ 】



お問合せ先

◎本統計調査結果について

農林水産省 北海道農政事務所 統計部
生産流通消費統計課

電 話：011-330-8820

◎農林水産統計全般について

農林水産省 北海道農政事務所 統計部
統計企画課

電 話：011-330-8818



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



SAFF

データの力で。

農林水産統計
Statistics of Agriculture,
Forestry and Fisheries